日本共産党 川崎市会議員（多摩区選出）市政報告　2019.10月 No.3

赤石ひろ子 市議会LETTERS

発行・連絡先　日本共産党市会議員団
川崎市川崎区宮本町1　川崎市役所第2庁舎7階
TEL044-200-3360　FAX044-245-4140
登戸事務所TEL044-930-1885

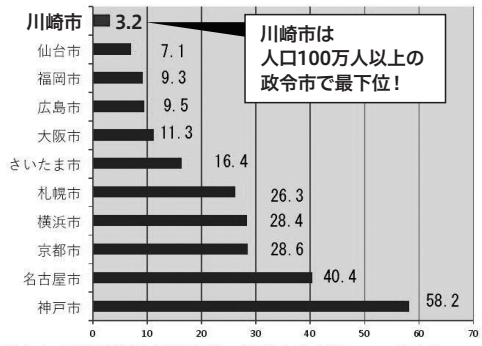
facebook　Twitter
www.akaishi-hiroko.jp/
赤石ひろ子の公式ブログ
QRコード

川崎市議会第４回定例会。赤石ひろ子議員が決算審査特別委員会総務分科会で質問しました。

障がいのある方にもっと働く機会を！障がい者優先調達実績の拡大を求めました。

川崎市は２０１３年から「川崎市障害者優先調達推進方針」を策定し、各局・区で障害者優先調達に取り組んできましたが、直近3年間の実績を見ても発注件数は80件に至らず、契約金額も3千万円代にとどまっています。しかも２０１８年度の発注件数は6件増えたものの、契約金額は３２２０万円と、前年度よりも20万円の減となりました。この実績は、調べた結果、人口１００万人以上の政令市11市のなかで、なんと最下位でした。神戸市の5億８２４２万円を筆頭に、1億円以上の実績を上げている政令市は7都市もあります。（グラフ参照）。赤石ひろ子議員はこのデータに基づき、全局・区での発注や、大口事業の分散発注や事業の切り分け発注、発注時期の平準化などで、障害者優先調達実績の拡大を求めました。

市からは「毎年の調達目標を『市全体で前年度調達実績額を上回る』から、新たに各局・区においても前年度を上回るよう設定」し、「川崎市障害者施設しごとセンター」との連携を図り最大限の実績拡大に努める」との答弁を得ました。赤石ひろ子市議は多摩区内の福祉事業所を視察し、働く障がい者との対話も重ねてきました。障がいを持つ方々は自分にできる仕事で、納税者になり社会に貢献したいと願っています。また、その仕事が生きる喜びになっています。今後も現場の声を市政に届けていきます。



政令市の障害者優先調達実績　（2018年度/単位＝一千万円）
※人口100万人以上の政令市のみ。

多摩区中野島にある福祉事業所「あゆクリーンサービス」は、5年前から優先調達で多摩区役所生田出張所の清掃を担当。朝8時30分から開始の清掃作業を視察しました。

相次ぐ大型台風の襲来で改めて問われる川崎市の防災対策。確実な避難情報伝達と迅速な被災者への対応を。

台風15号、19号は東日本を縦断し、各地に甚大な被害をもたらしました。台風19号では、高津区や中原区ほか、多摩区でも菅、堰、布田などで３５０棟の浸水被害が報告されています（10月20日現在）。川崎市の防災対策は万全でしょうか。

２０１８年度の防災行政無線設備整備事業では、多重系・衛星系防災行政無線設備の更新工事のほか、屋外受信機6基の増設が行われました。今年度も5基の増設が予定され、防災無線の音達地域の拡充に努めるとのことです。しかし、暴風雨時、屋内ではこの防災無線放送は全く聞こえません。２０１８年第3回定例会で日本共産党は「放送時に自動でスイッチが入るラジオ付き戸別受信機を全戸配布すべきだ」と質問し、市は「最新機器の機能や汎用性について研究してまいります」と答弁していましたが、その後の進捗状況について明確な答弁は得られませんでした。

本市導入の60メガヘルツのデジタル防災行政無線に対応する戸別受信機は1機8万円と高額で、全戸配布には対応しがたいとのことです。最近は、栃木県日光市や福島県二本松市など、音達精度が高い２８０メガヘルツのデジタル防災行政無線と戸別受信機全戸配布をセットで導入する自治体も相次いでいます。この２８０メガヘルツ対応受信機は1万8千円と安価なのです。また、台風15号で大規模停電が発生した千葉県内でも、鴨川市のポケベル電波を利用した戸別受信機（ラジオ）は動き、防災情報伝達に大いに役立ったとのことです。川崎市でも60メガヘルツ対応の戸別受信機の廉価化についてメーカーに要請する事など、引き続きの調査研究を要望しました。

また、自然災害で被災した時に区役所などで発行してもらえる罹災証明書についての発行や受けられる減免措置をわかりやすくワンシートにまとめた印刷物の製作、配布についても要望しました。日本共産党市議団は、今回の台風19号による被害への対策を求め、10月18日に急遽、市長への要望書を提出。今後も浸水の原因究明や被災者への支援などに取り組みます。

●このたびの台風災害で亡くなられた方々、被災された方々には、心よりお悔やみ、お見舞い申し上げるとともに、一日も早い復旧復興をお祈りいたします。

台風15号で倒れた生田緑地の樹木。

台風19号、多摩区堰では12日夜救命ボートも出動。

日本共産党市議団で市長に災害対策を緊急要望。（赤石市議は右）

2019年 第4回 川崎市議会定例会 代表討論概要

2018年度の決算議会が閉幕。10月9日に片柳 進議員が日本共産党市議団の代表討論を行いました。

市長の「財政厳しい」を批判し ゆたかな財政力を再確認

2018年度決算で歳入は前年度比で146億2500万円増の7153億1600万円。市税収入は5年連続過去最高、財政力指数は10年以上政令市トップを続け、市債償還のための減債基金は100億円積み増しして2300億円を超えました。川崎市が政令市で最も豊かな財政をもつことは明らかです。市は「減債基金から133億円の借入をしなければ一般会計が賄えない」から「財政は厳しい」といいますが、減債基金残高は他都市よりもはるかに多く、この積立てを減らして対応すれば、当該年度で十分な財源は確保できます。いま待ったなしの少子化対策や防災対策、高齢者福祉などへの予算規模の抜本的な引き上げを求めました。

ゆたかな財政は 市民のために使われるべき！

日本共産党は以下を市に求めました。

●中学卒業まで医療費無料に

小児医療費無料化については多くの自治体が対象年齢を「中学卒業まで」「高校卒業まで」に拡大しています。しかし川崎は全国的にも、政令市でも最低水準。中学卒業までの年齢拡充、通院の所得制限・一部負担金の撤廃を求めます。

●幼保無償化に伴う幼稚園保育料補助を

10月1日からの無償化措置は「無償化」とは言いながら、その恩恵に格差が生じています。他都市よりも高額な幼稚園保育料や入園料の補助を求めます。

●体育館や特別教室への空調設置急げ

子どもの健康と命を守る対策は急務。災害時の避難所環境改善の観点からも体育館と特別教室の空調設備設置は老朽化対策とは別に、早急な整備を。

●障がい者のミドルステイ創設

介護者の長期入院にも対応できるミドルステイの創設は障がい者団体からの切実な要望です。待機者が多いショートステイの拡充とともに求めます。

●加齢性難聴者へ補聴器購入補助を

75歳以上の41・6％が難聴といわれる昨今、補聴器購入補助は高齢化社会における重要課題です。本市独自の補助制度の創設を急いで。

●後期高齢者医療保険料軽減措置は据え置きに

低所得者に対し適用される特例措置の見直しで保険料が2倍、3倍に。市独自の財政措置で保険料の据え置きを求めます。

●国保料の子どもへの均等割を減免

国民健康保険料を高くしている均等割を、せめて18歳以下の子どもは免除をすべきです。

●就職氷河期世代に手厚い支援を

就職氷河期世代を中心に無業者、非正規雇用者問題は川崎市でも深刻。就労支援体制の整備、強化を求めます。

●地元建設業者への支援を厚く

住宅リフォーム需要を地元建設業者に結び付ける「住宅リフォーム助成制度」の創設や、建設業の週休2日制度導入に伴い建設労働者の賃金低下が起こらぬよう契約金額の上乗せを。

●万全な防災対策を

木造耐震住宅改修補助額の引き上げ、防災無線の戸別受信機の各戸配布、市立病院の災害時の水と電気の確保など、災害から市民のいのちを守る対策を求めます。

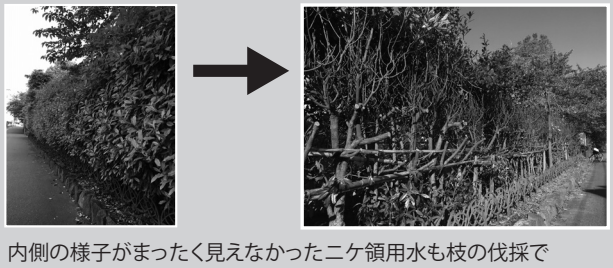
●羽田新飛行ルートの撤回

国土交通省は羽田空港を離陸する航空機が、石油コンビナート上空を飛ぶ新ルートを発表。野鳥が航空機と衝突し大事故に直結しかねない「バードストライク」の危険も高く川崎市は、国に撤回を求める交渉を行うべきです。

AREA TPICS 登戸

二ケ領用水の散歩も これで快適！

多摩川を源流に多摩区内を流れる二ケ領用水。ここ登戸界隈の用水沿道も宿河原と並ぶ桜の名所です。用水に沿って遊歩道が整備されていますが、なかには植栽が繁茂しすぎて藤棚やベンチの様子が外から見えにくくなっている場所も。防犯上も、景観上もよろしくないとの地域要望を市に伝え、先日剪定が行われました。二ケ領用水は来年3月には国の文化財として登録される予定。メンテナンスにもいっそうの配慮を期待したいものです。



内側の様子がまったく見えなかったニケ領用水も枝の伐採で見通し良好に。

初の市政報告会開催。地域要求を市政へ

8月25日（日）、多摩市民館にて開催された「赤石ひろ子市政報告会」には市民40名が参加。赤石ひろ子市議は6月議会での初質問の内容を報告しました。参加者全員が発言し、登戸土地区画整理事業の進捗、小田急線やＪＲ南武線、バス路線など交通状況の改善、緑地保全など、気になる地域の問題について活発な意見が交わされました。今後も皆さんの要望実現に向け頑張ってまいります。

●主な地域要望

1. 登戸土地区画整理事業の早期完了
2. 登戸地域での公園整備・トイレ設置を
3. 小田急線の複々線化で開かずの踏切解消
4. 登戸駅ペデストリアンデッキへのベンチ設置
5. 多摩沿線道路跨線橋の屋根設置
6. 市立多摩病院へのアクセス向上
7. 道路の陥没修繕を速やかに
8. 街路樹の定期剪定
9. 普通ごみ回収を週3日へ
10. 公立図書館での音読サービスの充実
11. 中野島駅臨時北口改札の開場時間の延長ほか
12. 宿河原地域のバス路線新設
13. 多摩川河川敷の整備
14. 災害時に緊急に対応できる生田浄水場の復活
15. 宿河原に文化施設が欲しい
16. 遊園から区役所へ行く道路の歩道をバリアフリーに
17. 登戸踏切付近の道路に信号設置を
18. 区画整理で公園予定は3カ所、増やせないか
19. 専大、明大を災害時避難所にできないか

梨花百々

りんかひゃくびゃく ③

写真は、多摩川梨の生ジャム。多摩区登戸にある福祉事業所「はっぴわーく」の製品です。地元特産の多摩川梨を甘さ控えめに、ゴロンとした梨粒の食感を残して仕上げています。もちろん、着色料も保存料も一切使わない、手作り無添加。昨年、地域イベントで知ってから、すっかり私のお気に入りになりました。この季節、ヨーグルトにかけたり、トーストに添えたりして楽しみます。

この多摩川梨の生ジャムは、近隣の梨農家から提供される規格外の梨が原料。「はっぴわーく」のプロダクトは、地域農業の活性化や地産地消にも一役買っているのです。川崎市とＪＲ東日本とが進める「のもの1-2-3プロジェクト」でもキャンペーン商品として採用され、私が今回質問でも取り上げた川崎市の優先調達品にもリストアップされていました。

いまや、予約をしないと買えない人気商品です。店先で接客するときの彼らの表情はとても誇らしげです。人と地域を元気づけてくれる仕事、これからも応援したいと思います。

（赤石ひろ子）